

平成 26 ( 2014 ) 年度 教員活動報告書 ( 1/8 )

学部・学科	臨床心理学部・教育福祉心理学科	職名	教授	氏名	ナカジマ チエ 中島 千恵
学歴	昭和49年 9月 英国ロンドン大学キングズ・カレッジ 留学(文部省(現・文部科学省)国費留学) 昭和52年 3月 広島大学教育学部教育学科 卒業 昭和54年 3月 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期教育行政学専攻比較教育学 修了 昭和55年 3月 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期教育行政学専攻比較教育学 退学(就職のため) 平成 5年 6月 米国スタンフォード大学大学院(行政政策分析専攻) 修了 平成 5年 9月 米国スタンフォード大学国際研究研究所 客員研究員「平6.6まで」				
学位	昭和54年 3月 教育学修士(広島大学) 平成 5年 6月 文学修士(M.A.)(スタンフォード大学)				
専門分野	教育行政学、比較教育学				
専門資格	昭和49年 8月 実用英語検定1級(日本英語検定協会) 昭和52年 3月 中学校教諭一種免許状(英語) 高等学校教諭二種免許状(英語) 平成23年 2月 睡眠指導士初級 平成24年 7月 「睡眠健康指導士初級」(一般社団法人 日本睡眠教育機構) *睡眠指導士初級からの移行により名称変更。認定期間 平成27年7月31日(更新中)				
所属学会	昭和52年 4月 日本比較教育学会(国政交流委員, 会計監査「平17.9-平20.8」) 昭和62年 4月 日本教育学会 民主教育協会(IDE) 平成 5年 6月 日本教育行政学会(国際交流委員「平13.11-平19」) アメリカ教育学会(American Educational Research Association) 平成 7年 8月 関西教育学会 平成 7年11月 日本社会教育学会 平成 8年 3月 関西教育行政学会 日英教育フォーラム(現・日英教育学会)(編集委員「平14-平20」, 選挙管理委員「平23.6-平23.9」), 会計監査「平23.8-平23.9」 平成16年 4月 環太平洋コンソーシアム(Pacific Circle Consortium)(執行委員(Executive Committee)「平17-平20」) 平成17年 4月 日本保育士養成協議会 平成21年 4月 日本学校保健学会 日本食育学会 平成21年 5月 日本栄養改善学会 平成24年 5月 日本公衆衛生学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 教育原論(小免課程) 教育原理(保育士課程) 教育福祉心理学演習 ・ 、教育福祉心理学実践演習(学校インターンシップ)				
論文指導					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/8)

FD活動・教育実績	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">科目名 教育原理</td> <td style="width: 33%;">科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験</td> <td style="width: 17%;">実施学期 春・秋</td> <td style="width: 17%;">履修者数 24名</td> </tr> </table>	科目名 教育原理	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 24名
	科目名 教育原理	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 24名	
	<p>授業の概要：教育の基本的な原理について幅広く教授する。</p> <p>教育活動の振り返り</p> <p>講義科目であるため、座学で頭だけの学びになります。シラバスに沿って授業を進める中、保育の学生達に子どもにとっての行事の意味や行事食の楽しみについて心でも理解しやすいように、ケーキや行事にちなんだ絵本の読み聞かせなども準備して学生の感性を刺激した。また、レポート作成については、授業「書く技法」の担当者と連携して、質が高まるよう工夫した。</p> <p>理論的な内容や哲学的内容、そして堅苦しい言葉などもあり、また、高校までに学ばない内容がほとんどであるため、大抵の学生達は難しいと感じる。ビデオやパワーポイントを活用して出来るだけ親しみを感じ、理解しやすいように工夫した。</p> <p>教育活動の成果</p> <p>今回は、5%程度の学生達があまり理解できなかったと感じたようであったが、95%の学生達は内容をだいたい理解したようである。レポート以外にも学習課題も多いが、学生達は良く頑張ったと考える。アンケートには出ないが、最後の最後まで学習を支援するなど努力した。</p> <p>今後の課題：</p> <p>アンケートでは、この授業のための勉強時間が30分以下と、ほとんど勉強していないことがわかった。試験前までテキストを読まない学生が圧倒的である。今後は、日常的にテキストを読んで授業に臨み、授業を通してより深い理解に至るように工夫したい。</p>				
1					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">科目名 教育原論</td> <td style="width: 33%;">科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験</td> <td style="width: 17%;">実施学期 春・秋</td> <td style="width: 17%;">履修者数 47名</td> </tr> </table>	科目名 教育原論	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 47名	
科目名 教育原論	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 47名		
<p>授業の概要：教育の基本的な原理について幅広く教授する。</p> <p>教育活動の振り返り</p> <p>理論的な内容が多く、言葉が難しかったり、高校までに学ばない内容がほとんどであるため、大抵の学生達は難しいと感じる科目である。内容は哲学的な内容も含まれ、難しいと感じるのが普通であろうと思う。ビデオやパワーポイントを活用して出来るだけ親しみを感じ、理解しやすいように工夫した。</p> <p>また、今年度は特別企画として、ニュージーランドの先生を招いて、学校における危機管理について、児童に最初に対応する人としての教師にどのようなことができるか、講演してもらった。先生自身がニュージーランドの震災を経験しておられ、学生の反応も良かった。</p> <p>教育活動の成果</p> <p>今回は、90%近くの学生達がまあまあ理解できたようである。コメントのなかには、「先生の話には説得力があり、聞きやすいです。」という好意的な記述もあった。しかし、課題もある。</p> <p>今後の課題：</p> <p>学生のコメントでこの授業の良い点のひとつとして、「みんなの意見が聞けること」とあった。しかし、一方で、意見を聞いたりするなかで、間違いや不適切な意見を正そうとすると、否定されていると感じる学生達がいるようだ。また、いくら自由な発言といっても言うてはいけないことがあることを伝えるに、今後、対話のなかでの指導をどのようにすると効果的なのか研究していきたい。</p>					
2					
<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績</p> <p>学内の以下の講演会・研修会に参加。</p> <p>平成26年10月 第1回FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える」</p> <p>平成27年 3月 1. 第2回FD講演会(研修会)「授業と評価をつなぐ為に～ルーブリック評価入門～」 2. ハラスメント研修「アカデミックハラスメントに係る講義とグループワーク」</p>					
<p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等を記入してください。</p> <p>特になし。</p>					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/8)

<p>H26 年度 研究課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期と小学校教育に関わる教育改革の調査研究</li> <li>2. 欧米における初等・中等教育改革</li> <li>3. 教職実践演習(栄養教諭)の記録作成</li> <li>4. パフォーマンス向上の諸要因の探求</li> </ol>
<p>平成二 十六 (2014) 年度の研究活動の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期と小学校教育に関わる教育改革の調査研究                      昨年に続き、日本では子ども子育て新システムの概要が固まっていくプロセスにあり、その内容をフォローするとともに、学会や研修会などに積極的に参加して、新制度の理解に努めた。また、幼小連携について、本の一部を執筆した。 後述:(著書)                      現在、幼小連携と小中一貫も含めた、接続に関わる改革についても執筆中である。</li> <li>2. 欧米における初等・中等教育改革                      今年度は本格的な調査は実施しなかったが、夏にフィンランドとイギリスを訪問した。フィンランドでは、幼児と小学生が集まる学童保育を見学させていただいた。また、イギリスでは、イギリスの研究者とアメリカの教育行政関係者と話をした。                      また、本年度は、教育委員会制度について大きな改革があった年でもあり、学会や東京におけるシンポジウムなどに積極的に参加し、改革内容の理解に努めた。</li> <li>3. 教職実践演習(栄養教諭)の記録作成                      教職実践演習に関わった教員との連名で、日本栄養改善学会で報告するとともに、京都文教短期大学の紀要に投稿した。 後述:(論文)2</li> <li>4. パフォーマンス向上の諸要因の探求                      本学「人を対象とする研究」倫理審査委員会の審査を経て、アンケート調査を4機関、約600人を対象に実施し、結果を学内紀要に投稿した。 後述:(論文)1</li> <li>5. 子どもの食の安全に関わる研究                      代表者(京都文教短期大学・食物栄養学科・教授 田中恵子)を中心とする科学研究費助成事業(基盤研究C・一般・課題番号23500994「消費者への効果的な食品表示教育方法の検討 個人レベルのリスク管理のために」)による研究で補助的役割として参加、学会で報告。 後述:(学会報告、学会活動)</li> </ol>
<p>平成二 十六 (2014) 年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『保育職論』共著(当該章担当)平成27年3月、建帛社、松本峰雄・安藤和彦・高橋司編著、「第8章 幼保小連携 心を育み、未来につなぐ」(pp.126-136)</li> </ol> <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「生活充実のための科学的知識の活用に向けて 深夜アルバイト学生の場合」、単著、平成27年3月、京都文教大学 心理社会的支援研究第5集(pp.25-38)</li> <li>2. 「短大における教職実践演習(栄養教諭)の取組と効果」(教育研究活動報告)共著(代表執筆)、平成27年3月、京都文教短期大学 研究紀要第53集(pp.149-160)</li> </ol> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>学会報告など:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「量と質と:子ども子育て新システムの概要」(発表)平成26年8月、関西教育行政学会8月例会、キャンパスプラザ京都6階京都大学サテライト講習室</li> <li>2. 「短期大学における教職実践演習(栄養教諭)の取り組みと効果」(発表)ポスターセッション、平成26年8月、日本栄養改善学会学術総会、パシフィコ横浜(発表要旨集p.322)</li> <li>3. 「子どもの食のリスクに関わる母親の認識」(発表)平成26年11月、第73回日本公衆衛生学会総会、栃木県総合文化センター</li> <li>4. 「子どもの食の安全に関わる母親の知識と認識」(発表、代表:田中恵子)平成26年12月、第13回日本栄養改善学会近畿支部学術総会、京都女子大学(講演要旨集p.71)</li> <li>5. 関西教育学会第66回大会(参加)・教師教育・保育士養成部会(司会)平成26年11月、滋賀大学学会活動:</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関西教育学会 編集委員</li> </ol>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/8)

<p>平成 二 十六 (2014) 年度の 主な 研究 成果 等</p>	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>1. 「アメリカの保育・教育施設における安全意識 訴訟社会のジレンマ」、単著、平成26年4月、日本幼稚園協会『幼児の教育』春号(第113巻第2号)(pp.14-19)</p> <p>(調査活動)</p> <p>平成26年8月30日～9月12日 フィンランドの学童保育を訪問調査(私費) 於：ヘルシンキ市内のプレイパーク</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>(学内活動)</p> <p>大学運営会議委員</p>
<p>平成 二 十六 (2014) 年度の 社会 にお ける 活動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <p>平成26年 4月 宇治市・宇治市商工観光課・宇治市技能功労者選考委員 副会長「平26.11まで」 平成26年10月 京都市保育園連盟・京都保育研究所・「保育文化賞」実践論文審査委員「平26.12まで」</p> <p>平成26年 7月 平成26年度夏期教員免許状更新講習講師、「教育の最新事情(初等教育)」、於：京都文教大学 平成26年10月 平成26年度秋期教員免許状更新講習講師、「教育の最新事情(初等教育)」、於：京都文教大学</p> <p>(その他)</p> <p>1. 学外講師等：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独立行政法人滋賀医科大学非常勤講師(「教育学」)「平12.4より」</li> <li>・ 滋賀県立総合保健専門学校非常勤講師(「教育学」)「平7.10より」</li> <li>・ 日本赤十字看護専門学校非常勤講師(「社会学」)「平21.3より」</li> <li>・ びわこ成蹊スポーツ大学非常勤講師(「教育制度論」)「平20.4より」</li> <li>・ 独立行政法人島根大学嘱託講師(集中講義「教育原論」)「平23.2より」</li> <li>・ 大谷大学非常勤講師(集中講義 特例科目「教育制度論」)「平26.4より」</li> </ul> <p>2. 国際交流活動</p> <p>平成26年2月2日、4月9日 関西スタンフォードクラブ幹事会メンバー(スタンフォード大学からインターンシップで来日する学生のための歓迎会を企画・実施、年2回)「平12.1より」 平成26年11月17日 ニュージーランドのキャロルマッチ先生を招き、授業で講演をしていただくとともに、震災ボランティアを複数年経験している本学の学生へのインタビューを通じた交流を実現した。</p>
<p>平成 二 十 一 ～ 二 十 五 (2009～2013) 年度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 「1章2節 人間形成の基盤としての保育・教育」「2章3節1. 保育所保育の目的と目標、2. 幼稚園教育の目的と目標」「3章4節 日本の保育思想」「5章2節 保育指導の基本」「6章 家庭や地域との連携」「7章 国際的視野からみた日本の保育・教育制度」「8章 教育法規と教育行政」、共編著(当該章等担当)平成22年4月(第2版：平成23年9月) あいり出版、『人間形成の基本原理解 子どもの幸福のために』(pp.8-15, pp.30-33, pp.50-60, pp.80-86, pp.93-103, pp.105-123, pp.125-139 *ページは第2版のもの)</p> <p>2. 「第1部第2章 保育思想と保育制度の歴史」「第2部第5章第1節 アメリカの教育」、共編著(当該章等担当)平成23年4月、あいり出版、『保育・教育を考える 保育者論から教育論へ』(pp.14-26, pp.124-128)</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「女子短大生の食意識に関する分析 意識と知識との関係」、共著、平成21年6月、関西教育学会年報第33号(pp.145-149)</p> <p>2. 「京都府南部の保育所における食育状況」、共著、平成22年2月、京都文教短期大学 研究紀要第48集(pp.21-29)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/8)

(論文 つづき)

3. 「短大における「食育」教育で何ができるか? 教育・食物・医学・心理の連携を通して」(研究ノート)、共著、平成22年2月、京都文教短期大学 研究紀要第48集 (pp.96-103)
4. 「学園祭における食育の実践 保育士、栄養士をめざす学生の取り組み」(教育研究活動報告)、共著、平成22年2月、京都文教短期大学 研究紀要第48集 (pp.129-134)
5. 「乳幼児保育サービスの質をいかに担保するか ニュージーランドの第三者評価システムからの示唆」(研究ノート)、単著、平成22年2月、京都文教短期大学 研究紀要第48集 (pp.104-110)
6. 『教育・食物栄養・医療の連携による食育実践能力を高める保育士養成プログラムの構築』、共著、平成22年3月、平成19-21年度科学研究費補助金(萌芽研究・課題番号19653096:後述)研究成果報告書(298p)
7. 「ニュージーランドにおける家庭的保育サービスの質の評価と改善 教育評価局(ERO)による評価報告書の分析を通して」、単著、平成22年3月、平成19-21年度科学研究費補助金(基盤研究B・課題番号193330182:後述)研究成果報告書(pp.84-101)
8. 「アメリカ合衆国における保幼小連携を推進する多機関コラボレーション」、単著、平成23年3月、京都文教短期大学 研究紀要第49集 (pp.85-95)
9. 「地域における保育園との連携による食育実践に関する調査研究」、共著、平成23年3月、京都文教短期大学 研究紀要第49集 (pp.23-31)
10. 「保育士・栄養士をめざす学生の食育実践力、連携力を培う試み」(教育研究活動報告)、共著、平成23年3月、京都文教短期大学 研究紀要第49集 (pp.169-175)
11. 「マサチューセッツ州における幼児教育行政の統合 独立した幼児教育局の誕生とガバナンス」、単著、平成23年6月、平成21-23年度科学研究費補助金(基盤研究B・課題番号21330188:後述)中間報告書(pp.44-55)
12. 「マサチューセッツ州における州政府レベルのマルチエイジェンシー・コラボレーション スクールレディネスを高めるための施策を中心に」、単著、平成23年6月、平成21-23年度科学研究費補助金(基盤研究B・課題番号21330188:後述)最終報告書(pp.48-66)
13. 「アメリカにおける就学前からの言語教育強化政策とその根拠」、単著、平成24年3月、京都文教短期大学 研究紀要第50集 (pp.115-124)
14. 「グローバル化する社会における小学校への移行の質的变化 アメリカ合衆国カリフォルニア州の場合」、単著、平成26年3月、京都文教大学 臨床心理学部研究報告第6集 (pp.39-53)
15. 「カリフォルニア州における移行期における保護者支援の理念と取り組み」、単著、平成26年3月、京都文教大学 心理社会的支援研究第4集 (pp.37-50)

(学会報告、学会活動)

1. 「学園祭における食育の実践 保育士、栄養士をめざす学生の取り組み」(ポスターセッション)、共同、平成21年6月、第3回日本食育学会学術大会、実践女子大学
2. 「京都市および京都府南部地域における保育所の食育状況」(ポスターセッション)、共同、平成21年9月、第56回日本栄養改善学会学術総会、札幌コンベンションセンター
3. 「短大生の食意識の変化に関する分析(1)アンケート結果フィードバックによる食意識の高揚とその後の改善」、共同、平成21年9月、全国保育士養成協議会第48回研究大会、東北福祉大学
4. 「短大生の食意識の変化に関する分析(2)大学での教育実践とその有効性について」、共同、平成21年9月、全国保育士養成協議会第48回研究大会、東北福祉大学
5. 「女子短大生の食と生活習慣に関する学習効果への一考察」、共同、平成21年11月、第56回日本学校保健学会、沖縄県立看護大学
6. 「ライフスキルの伝達者を育てる 大学における食育の成果は?」、共同、平成21年11月、第56回日本学校保健学会、沖縄県立看護大学
7. "Quality Assurance in Early Childhood Education A Comparative Study between Japan and New Zealand", 共同、平成22年5月、Pacific Circle Consortium 34th Annual Conference, Southern Oregon University Ashland, Oregon, USA

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/8)

(学会報告、学会活動 つづき)

8. 「保育士・栄養士をめざす学生の食育実践力、連携力を養う試み」、共同、平成22年5月、第4回日本食育学会学術大会、熊本県立大学
9. 「学習ギャップとの闘い カリフォルニアにおける保幼小連携の動き」、単独、平成22年6月、日本比較教育学会第46回大会、神戸大学
10. 国際会議「OECD / Japanセミナー」第13回 保育者の専門性と園組織運営における質の向上(参加)、平成22年6月、文部科学省・経済協力開発機構(OECD)共催、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)
11. 「保育園における食育実践調査から見えるこれからの大学での食育実践者養成の方向性」、共同、平成22年9月、全国保育士養成協議会第49回研究大会、甲府富士屋ホテル(山梨県)
12. 「アメリカにおける保幼小連携:その論理」、単独、平成23年6月、日本比較教育学会第47回大会、早稲田大学
13. 「マサチューセッツ州における幼児教育行政の統合とコラボレーション」、単独、平成23年10月、日本教育行政学会第46回大会、九州大学
14. 「短大生の食の安全に対する意識変化と課題」、共同、平成23年11月、第58回日本学校保健学会、名古屋大学
15. 「新たな教育段階の視点 アメリカにおけるプリKから小3までの諸機関のコラボレーション」、単独、平成24年5月、関西教育行政学会、平成24年度5月例会、京都大学
16. 「就学前教育政策の世界的潮流 人生の始まりが今なぜ問われるのか:アメリカの経験」、単独、平成24年6月、日本比較教育学会 課題研究、九州大学
17. 「アメリカにおけるスクールレディネスの一戦略」、単独、平成24年9月、全国保育士養成協議会第51回研究大会、京都文教短期大学
18. 「保育士養成施設における食のリスク教育に関する基礎的な知見」、共同、平成24年10月、日本公衆衛生学会第71回大会(ポスターセッション)、サンルート国際ホテル山口
19. “Why So Different? A Comparative Study of Curriculum for Early Childhood Education between the United States and Japan”, 単独、平成25年6月、37<sup>th</sup> Pacific Circle Consortium、ハワイ大学 2013年度京都文教大学海外学術研究助成金(助成額280,000円)による
20. 「平等と質のはざままで アメリカにおけるNPMガバナンスの下で生み出された排除のメカニズム」、単独、平成25年10月、第48回日本教育行政学会、京都大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

学術講演:

1. 「カリフォルニアにおける幼小連携の動向」、平成22年3月、文部科学省・国立教育政策研究所主催公開講演会、国立教育政策研究所

通訳:

1. 日英教育学会第18回研究大会シンポジウム通訳(日本語 英語)、平成21年7月
2. 日本教育行政学会第48回大会国際シンポジウム「検証 教育のガバナンス改革 英米日韓4カ国の事例からトレンドを探る」、平成25年10月、京都大学
3. 日英教育学会特別研究会「就学前の子どもに対する政策について」、平成25年10月、キャンパスプラザ京都

その他:

1. 「草の根の連携が推進される風土と環境の醸成を願って」、単著、平成22年1月、京都文教大学学生相談室、学生相談臨床 京都文教大学学生相談室報告書第5号・学生相談室開室10周年記念号(pp.10-14)
2. 「園と家庭の素敵な連携 ハッピーなお子さんを園に」、単著、平成22年3月、京都文教短期大学附属家政城陽幼稚園 子育てエッセー集(pp.1-2)
3. 「アメリカ保幼小連携:プリKから小学校3年生まで」、単著、平成23年4月、社団法人京都市私立幼稚園協会会報「共に」164号(1p)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (7/8)

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)

4. 「幼児の言語能力をストップウォッチで測る？」、単著、平成23年5月、社団法人京都市私立幼稚園協会会報「共に」165号(1p)
5. 「保護者に保育の質を語る：ニュージーランドの場合」、単著、平成23年6月、社団法人京都市私立幼稚園協会会報「共に」166号(1p)
6. 「お弁当の文化と手作りの卵焼き」、単著、平成23年7月、社団法人京都市私立幼稚園協会会報「共に」167号(1p)
7. 「AFS American Field Service」、単著、平成24年6月、東信堂、日本比較教育学会編、『比較教育学事典』(p.51)
8. 「チャータースクール Charter School」、単著、平成24年6月、東信堂、日本比較教育学会編、『比較教育学事典』(p.268)

(調査活動)

- 平成22年 3月 教育調査、於：カリフォルニア州サクラメント(科学研究費補助金課題番号21330188：後述)
- 平成22年 9月 教育調査、於：ニュージャージー州(トレントン)、マサチューセッツ州ボストン、スプリングフィールド(科学研究費補助金課題番号21330188：後述)
- 平成24年 5月 教育調査：於マサチューセッツ州、ボストン、ハーバード大学チルドレンセンター(京都文教短期大学個人研究費)
- 平成25年 6月-9月 メキシコの研究者から依頼を受け、氏が作成した質問紙を京都大学、早稲田大学の教授に依頼する他、京都商工会議所、文部科学省などを訪問し、インタビューを実施した。
- 平成25年 9月 定年退職の年を迎えた女性校長と面談し、「教職と実習に関する問題について」の聞き取り調査を行った。於：長浜市立永原小学校

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)

- 平成19年度-平成21年度  
科学研究費補助金(萌芽研究)「教育・食物栄養・医療の連携による食育実践能力を高める保育士養成プログラムの構築」(課題番号19653096)研究代表者
- 平成19年度-平成21年度  
科学研究費補助金(基盤研究(B))「戦略的学校評価システムの開発に関する比較研究」(課題番号19330182, 研究代表者：玉川大学・教育学研究科・教授 小松郁夫)研究分担者
- 平成21年度-平成23年度  
科学研究費補助金(基盤研究(B))「子ども・青少年」行政の統合化と専門家養成に関する国際比較研究」(課題番号21330188, 研究代表者：東北大学大学院・教育学研究科・教授 宮腰英一)研究分担者
- 平成21年度-平成23年度  
科学研究費補助金(基盤研究(C))「生涯発達能力を育む幼少連携の在り方に関する国際比較研究」(課題番号21530867, 研究代表者：国立教育政策研究所・国際研究・協力部・総括研究官 鏝屋(一見)真理子)連携研究者
- 平成23年度-平成25年度  
科学研究費助成事業科学研究費補助金(基盤研究(C))「消費者への効果的な食品表示教育方法の検討 個人レベルのリスク管理のために」(課題番号23500994, 研究代表者：京都文教短期大学・食物栄養学科・教授 田中恵子)連携研究者

(学園内補助金による研究活動)

- 平成21年度-平成22年度  
京都文教短期大学特別研究助成「保育所との連携による食育実践の調査研究」(研究代表者：京都文教短期大学・食物栄養学科・教授 坂本裕子)研究分担者

(学内活動)

- 平成25年 4月 大学運営会議委員「現在に至る」

平成二十一〜二十五(2009〜2013)年度の主な研究成果等

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (8/8)

平成二十一～二十五(2009～2013)年度の社会における活動

(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)

平成25年10月-11月 宇治市、商工観光課、宇治市技能功労者選考委員(副会長)

(小中高との連携授業の講師)

平成21年 5月 京都文教高等学校ALP講師、「幼稚園と保育所の誕生」、於：同校

平成21年 6月 京都文教高等学校ALP講師、「保育所を支える公的制度」、於：同校

平成22年 8月 高大連携授業「保育者は環境のデザイナー」、於：京都文教短期大学

平成23年 4月 高大連携授業「保育者は環境のデザイナー」、於：京都文教短期大学

(その他)

1. 学外講師等

平成 7年10月 滋賀県立総合保健専門学校非常勤講師(「教育学」)「現在に至る」

平成12年 4月 独立行政法人滋賀医科大学非常勤講師(「教育学」)「現在に至る」

平成17年 4月 京都文教短期大学幼児教育学科教授「平25.3まで」

平成20年 4月 びわこ成蹊スポーツ大学非常勤講師(「教育制度論」)「現在に至る」

平成21年 3月 日本赤十字看護専門学校非常勤講師(「社会学」)「現在に至る」

平成22年1月-2月 京滋私立短期大学協会 短期大学質的保証に関する研究会委員

平成23年 2月 独立行政法人島根大学嘱託講師(集中講義「教育原論」)「現在に至る」

平成24年 8月 独立行政法人滋賀大学非常勤講師(「教育の法規と行政」)

平成25年4月-9月 独立行政法人京都大学非常勤講師(「相関教育システム論講読演習」)

2. 国際交流活動

平成12年 1月 関西スタンフォードクラブ幹事(スタンフォード大学からインターンシップのために来日する学生の歓迎会など開催)「現在に至る」